

6/  
21



愛媛CATV  
動画

## 一本松中学校で 砂防学習会

土砂災害に対する理解を深めるための砂防学習会が一本松中であり、1年生22人が参加しました。

講師から土砂災害が起こる仕組みや危険性について説明を受け、生徒は真剣な表情で話を聞いていました。その後屋外に移動し、降雨体験装置で1時間に180ミリの日本一の雨を体験しました。

学習を終えた清水遥<sup>はるか</sup>さんは、「土砂災害がどのように起こるかが分かった」と話していました。



降雨体験装置で日本一の雨を体験する一本松中の1年生

6/  
25

## シルバー人材センター 優良会員表彰

日頃から安全就業に取り組み、平成30年度まで7年間にわたり無事故で就労したことが評価され、愛南町シルバー人材センター会員の山下勝<sup>かつむね</sup>一さんが表彰を受けました。

安全就業優良個人部門で愛媛県シルバー人材センター連合会から表彰された山下さんは、「主に剪定の仕事をしているので危険が常にある。安全第一を心掛け、これからもシルバーを必要とする方のために頑張りたい」と話していました。



会員の前で表彰状を受け取る山下勝一さん

6/  
28

## サンゴを守る 保全活動がスタート

町の沿岸海域に生息しているサンゴ群をオニヒトデや巻貝の被害から保護しようとして、宇和海中資源保護対策協議会による今年度の保全活動が始まりました。

この日は内海沖の塩子島周辺で7名のダイバーが80分の潜水作業を行い、計178匹のオニヒトデを駆除しました。ダイバーの尾川博史<sup>ひろし</sup>さんは、「きれいな海を残していくのが自分たちの使命なので、やれる限りは頑張りたい」と話していました。



サンゴを食べるオニヒトデを駆除したダイバーの吉田真一さん

7/  
3

## 南楽荘入所者と園児 が交流会

南楽荘食堂ホールで、施設入所者とあいなん幼稚園の園児による笹飾り交流会が行われました。この催しは交流を目的として毎年行われており、入所者と園児を合わせて約60人が一緒に笹飾りを作り、飾り付けを行いました。

参加した園児からは、「かわいくなかった」、「おばあちゃんが優しくかった」などの声が聞かれ、入所者の松岡スエさんは、「園児が自分の孫みたくて楽しかった」と笑顔で話していました。



折り紙で交流する南楽荘入所者とあいなん幼稚園の園児

6/28 「地産地消の日」 町内の学校給食に  
町内産の養殖真鯛やなすを使用したメニューが登場



町の学校給食では、食育を推進するために毎月10日を町内産の魚介類を使用する「ととの日」、毎月19日を町内産の旬の食材を使用したカレーとする「食育の日」とするなど、4つの食の記念日を設定しています。

6月28日(金)は、第4金曜日に町内産の食材をできる限り多く使用する「地産地消の日」です。この日の献立は、「愛南産鯛のグリーン揚げ、愛南産なすのみそ汁、県内産ちりめん入りおひたし、白ごはん、牛乳」です。

「愛南産鯛のグリーン揚げ」は、町内産の養殖真鯛に抹茶とパセリなどをまぶして、高温で揚げます。「愛南産なすのみそ汁」は、町内産のなすを、町内で製造した麦みそを使ったみそ汁の具材としました。

家申小学校1・2年生の教室では、皆が仲良く並んで、楽しそうに給食を食べていました。また、城辺中学校3年生の教室では、「鯛はおいしいから、最後の楽しみとして残しておく」と言う生徒もあり、愛南町産の食材をよく噛んで味わいました。



7/4 城辺保育所園児が七夕飾りを届ける

七夕飾りを送り届けた  
城辺保育所園児の皆さん



七夕を前に城辺保育所の園児31人が役場本庁に七夕飾りを届けました。この活動は城辺駐在所連絡協議会が幼少期から交通安全の大切さを理解してもらうために毎年行っているもので、この日は園児が飾り付けた2本の笹飾りが役場本庁の玄関前に飾られました。

園児が飾り付けた短冊には、「家族が交通事故に遭わないように」、「ママと手をつないで歩きます」などといった内容が書かれていました。



歌で会場を盛り上げるリーフレットの皆さん

親子で参加した城辺小の児童は、「キャンドルのシールを貼るのが難しかったけど、上手にできた」と楽しそうに話していました。

イベントを盛り上げました。

加者と写真撮影を行うなど、しくんがゲストで登場してイベントを盛り上げました。

城の辺学習館で恒例の城の辺笹まつりが開催され、参加者とボランティア合わせて約110人が参加し、七夕くるくるキャンドルの制作や、歌と踊りのステージイベントなどを楽しみました。また、な

7/6 城の辺笹まつり  
歌や踊りなど披露

7/6



愛媛CATV  
動画



7/ 5 山の僧都小学校と海の家串小学校  
両校児童が調理実習と川遊びで交流



交流学习を行った僧都小と家串小の皆さん

僧都小と家串小の児童が、調理実習や川遊びを通じて交流を深めました。

異なる自然環境の中にある学校の児童が互いに交流することで学習経験を豊かにし、より多くの人数の中で集団活動を行って自己表現力やコミュニケーション能力の育成を図ろうと企画され、7月5日(金)に家串小の3～6年生が僧都小を訪れました。

午前中は僧都ふれあい交流館で児童や教職員が3班に分かれて調理実習を行い、山出で鮮魚店を営む山口誠まことさんから魚のさばき方などの調理方法を教わりました。

家串小4年の前田航輝こうきくんは、「交流は楽しかった。僧都は目の前が川、家串は海なので全然違うと思った」と環境の違いに驚いた様子でした。

午後には僧都川で川遊びを行い、楽しい一日を過ごしました。



メニューはひじきご飯、鯛のトマトソースソテー、うしお汁



公用車の管理について町職員の説明を受ける御荘中の生徒

御荘中3年生の生徒4人が、役場本庁で職場体験学習を行いました。

この日は納品されたばかりの広報紙の仕分け作業や役場内の郵便業務などを行ったほか、公用車の管理方法について町職員から説明を受けました。

松岡愛美まなみさんは、「将来は教員や公務員になりたいと考えているので、一つ一つのことをしっかりこなせるように意識して取り組んだ」と話していました。

7/ 3

御荘中学校生徒が  
役場で職場体験学習



祈願祭に参加した久良地区や漁協の関係者の皆さん

また、祈願祭後に行われた漁船の出港式には、久良小の児童20人が参加しました。港から出港を見送り、その後、漁船のパレードに参加して式を盛り上げました。

また、祈願祭後に行われた漁船の出港式には、久良小の児童20人が参加しました。港から出港を見送り、その後、漁船のパレードに参加して式を盛り上げました。

7/ 8

久良でヨコワの豊漁  
を願う祈願祭

クロマグロの稚魚であるヨコワ漁の開始に合わせて久良の若宮神社で大漁祈願祭が行われました。

船団を取りまとめる久良漁協の竹田英則ひでのり組合長は、「ヨコワの豊漁と航海の安全、みんなの健康を祈りました」と話していました。



愛媛CATV  
動画

7/  
8・11令和元年春の叙勲・高齢者叙勲  
宗田清昭さん、木田雄三さん、田原嘉照さんがそれぞれ受章

令和元年春の叙勲を受章した木田雄三さん(左)、宗田清昭さん



高齢者叙勲を受章した田原嘉照さん(左)と、叙勲を伝達した大北秀南予地方局長

令和元年春の叙勲(令和元年5月21日付け発令)

瑞宝小綬章 防衛行政事務功労 宗田清昭さん(御荘菊川)

瑞宝双光章 郵政事業功労 木田雄三さん(城辺甲)

宗田さんは42年間防衛省に勤務され、主に陸・海・空の各自衛隊が装備する主要防衛装備品の調達を任務とする部署に長く勤められました。現在も愛南町自衛隊家族会顧問を務められるなど、自衛隊の活動に尽力されています。今回の受章について、「誰もが頂ける章ではないので光栄。町内の自衛隊関係者にとっても励みになるのではないかとこれからも愛南町のために頑張りたい」と話していました。

また、木田さんは47年間郵便局に勤務され、城辺郵便局長を26年間務められました。今回の受章について、「令和になって最初の叙勲ということで意義深く光栄。これからも郵政関係のことで皆さまのために尽くしたい」と話していました。

高齢者叙勲(令和元年5月1日付け発令)

旭日単光章 地方自治功労 田原嘉照さん(城辺甲)

田原さんは城辺町職員を経て平成5年2月から城辺町議会議員を務められ、町村合併後の平成17年3月まで愛南町議会議員としておよそ12年間町議会議員を務められました。今回の受章について、「身に余る栄誉と認識します。謹んでお受けいたします」と話していました。

7/  
11帰国を前に公民館で最後の講座  
ALTのブリアナ先生から感謝のメッセージ

城の辺学習館で行われた最後の講座で受講者の皆さんと記念撮影



受講者と英会話を楽しむブリアナ先生

町内の小中学校で英語を教えていたALTのブリアナ先生が、7月下旬に任期を終えて帰国しました。夜間には城の辺学習館で開講される社会人向けの英会話教室の講師も務めており、7月11日(木)には最後の講座が行われました。

3年間にわたる愛南町での生活で、特に思い出に残っていることやお世話になった方へのメッセージなどをお聞きしました。

ブリアナ先生からのメッセージ

「学校生活、特に中学校での運動会や応援団が素晴らしくて印象に残っています。愛南町は山と海の両方があり、私の故郷とは違ってとても美しいです。素晴らしい3年間を過ごすことができ、皆さんにとっても親切にしてくださりました。日本、愛媛、そして愛南町のことを学ぶことができました。帰国するのはとても寂しい気持ちですが、またお会いしましょう！」

なお、ブリアナ先生は帰国後にドイツ語を勉強し、その後ドイツで修士号の取得を目指すそうです。これからの活躍を期待しています。